

高島藤樹会

(題字は、竹脇曼卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川1225-1
藤樹書院・良知館内
電話・FAX 0740(32)4156

「良知の里」

清水 賢一

中国関係のネットで見えていますと最近、王陽明の研究が注目を集めていることが判ります。その理由は王陽明が明朝を代表する文武両道の思想家だからです。明は、漢民族の王朝で中国人の誇りなのです。

王陽明の学説は心学一派とみなされていますが、根幹にあるのは、「聖人の学」です。人は皆、学べば聖人になれると言います。頓悟でも漸悟でも、良知は聖人に至る道案内です。しかも『論語』の思想を発展させた学説ですから、これもまた、漢民族の誇りです。

写真①「敬天愛人」は『伝習録』を味読した西郷隆盛の揮毫ですが、「人を愛す」という語句には、分け隔てなく人を愛した「西郷さん」の人柄が浮かんできます。



流賢 湖西中学校

清水安三先生も、北京に創立した崇貞学園の講堂に、「学道愛人」と書いて校訓にしていました。「愛

人」は、西郷さんを真似て同じですが、「道を学ぶ」ことを勧めたのは孔子です。人は、学んで人になります。その趣意をさらに発展させたのが、写真②「学而事人」です。この句碑は北京の陳経綸中学校（旧崇貞学園）と新旭町の湖西中学校にあります。

これは、『論語』にある「学而」と、「事」（つかえる）という字句を組み合わせて、安三先生が創案した四字句です。

現代の社会は、様々な問題を抱えています。人間の善意や良心に対する信頼が損なわれ、蚕食されているというのが現状です。

明の時代も同じです。王陽明は、『大学』を復活させて「致良知」の説を提唱し、精神の救済に努めました。良心や善意というものに社会的な価値を付与して、実践哲学に昇華しています。

「良知の里」に生まれ育った安三先生ですが、終生、藤樹先生の教えを広めて、「聖人の道」を伝えました。また、困窮していた北京の子女を救済して、「人に事える」ことを中国の人に教えた日本人です。今や、藤樹書院と陽明園を擁している「良知の里」は、日本人の原点というだけではありません。（桜美林大学孔子学院高島学堂堂長）

ひじりの声

上田藤市郎

電話という文字が表すように音声で遠距離対話ができることは、画期的なものであった。しかし、文字を使用するメールの方が、お互いの時間に拘束されず、記録性も高く人気がある。

藤樹先生の時代、文字の読み書きができる人は一〇%未満であったから、村落の人々の多くが、先生の講話を耳で聞いて理解していたと思われる。馬方又左エ門という人は、先生の言葉を単なる知識とせず、即、実践した人である。

識字教育が普及した私たちは、文字を意識して理解し記憶するので、そこで、わかったような気になつてしまう。あとで実行すればよいことだと蓄積してしまふ。文字を意識せずに考えをまとめ語り、記憶しなければならなかった人々は、それを実行することで言葉の意義を実体験していたと言えるかもしれない。

藤樹先生の教えは、日常生活で繰り返し実践を重ねた結果が、生きた文字になるのだと考へたい。暮らしがよくなった成果が、政治であり、人権や平和も憲法の中では、単なる条文である。私たちの不断の実践が、文言を現実のものにするのである。